

↓ 当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 新規受託項目

- [26225] 25-OHビタミンD分画

#### 受託開始日

- 平成27年2月2日(月)



## 25-OHビタミンD分画

ビタミンD(V-D)はカルシウムやリンの代謝の調節に関与し、骨代謝を司る脂溶性のビタミンです。

V-DにはV-D<sub>2</sub>とV-D<sub>3</sub>があり、植物にはV-D<sub>2</sub>が含まれますが、機能や生理学的活性にはほとんど差が無く、食餌により両方が摂取されます。ヒトを含め動物は日光による紫外線照射により皮膚でV-D<sub>3</sub>を合成します。

V-Dは体内に吸収されると、まず肝で25-ヒドロキシラーゼにより側鎖の25位が水酸化され大部分が25-OH-Dになり、V-D結合蛋白と結合し血中を循環しますが、これ自体はほとんど生理学的活性を持ちません。さらに腎で1 $\alpha$ -ヒドロキシラーゼの作用により1 $\alpha$ 位が水酸化され、1 $\alpha$ ,25-(OH)<sub>2</sub>-Dに代謝されます。この1 $\alpha$ ,25-(OH)<sub>2</sub>-DはV-D受容体との親和性が最も強く、生理学的活性も高いので、一般に活性型V-Dと呼ばれ、主に活性型V-D投与による治療効果判定に用いられます。

V-D欠乏症の場合は通常は1 $\alpha$ ,25-(OH)<sub>2</sub>-Dは低値にはならず、骨軟化症やクル病の診断には25-OH-Dの測定が不可欠とされており、厚生労働省「日本人の食事摂取基準」や日本小児内分秘学会「ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」にも充足状態の把握や欠乏症の診断のために測定が推奨されています。

25-OH-Dは検査開始当初から長きに亘り、放射線を用いた競合性蛋白結合分析法(CPBA法)により測定されてきました。

この度、弊社では液体クロマトグラフィータンデム質量分析法(LC-MS/MS法)による測定法を新たに開発し、検査の受託を開始致します。LC-MS/MS法は分離能に優れているため、V-D<sub>2</sub>とV-D<sub>3</sub>を分画し報告することが可能になりました。V-D<sub>2</sub>とV-D<sub>3</sub>の各々の濃度を測定することは、V-Dの体内動態を把握するために有用と考えられます。

### 検査要項

|          |   |
|----------|---|
| 項目コード    | 26225   |
| 検査項目名    | 25-OHビタミンD分画  |
| 検体量／保存方法 | 血清 0.3mL / 凍結   |
| 検査方法     | LC-MS/MS  |
| 基準値      | D <sub>2</sub> : 12.1ng/mL 以下<br>D <sub>3</sub> : 5.5~41.4ng/mL |
| 所要日数     | 6~12日   |
| 検査実施料    | 未収載   |

[注] 本検査の受託開始に伴い、[01570]25-OHビタミンD《CPBA法》は平成27年3月31日(火)をもちまして検査受託を中止させていただきます。

### 参考文献

渭原 博, 橋詰直孝 : ビタミン 85 : 280-290, 2011.

Saenger AK, et al : Am J Clin Pathol 125 : 914-920, 2006.